

焼酎と桜島が薩摩の誇り

横溝 和恵

鹿児島県



SNSで出会った写真好きの人たちとの集い

鹿児島県の街から見た桜島は雄大な存在感を表している。山の下半分の緑とは異なり、上部はゴツゴツとした濃褐色の溶岩の様相である。錦江湾にそびえ立つりりしい姿である。

横溝和恵さんは霧島市役所国分庁舎にて設置手話通訳者として勤務されている。お子さんの学校行事や、地域の行事にも積極的に参加する行動派。また、鹿児島県手話通訳問題研究会会長としても日々多忙である。





2017年度手話奉仕員養成講座(入門課程)
閉講式・修了証書授与式





2人で講師をしていました。「講師、お疲れさまー」

忙中趣味あり。

「焼酎」には際立った思い入れがある。鹿児島といえば焼酎と思われるイメージがあるように確かに、街中に焼酎専門販売店がある。横溝さんが、焼酎に傾倒したきっかけになったのは、焼酎メーカーの熱い杜氏との出会いがあった。ものづくりの苦労や喜びの会話に多くを学んだ。そして、心の奥底の鹿児島愛に火がついた。いろいろな蔵のイベントには数多く参加している。ろう者の焼酎好きと連れ立って、今年も参加した。後日、共に参加したろう者の1人と会った時、「この間、私、声出してた？」と尋ねられたので、「声出してたよ」と答えると、「私、本当に楽しい時だけ声が出るんです」それを聞いた横溝さんは本当にうれしかった。

本日も多忙。

今度開かれる小学校の同窓会のために、恩師も交え、打ち合わせに真剣である。

「飲みニケーション」が多いという特異性はあるとしても(笑)、

いろいろな人と出会い、心と心のコミュニケーションをすることが

横溝さんのエネルギー源であるのは間違いない。

今日も、桜島のマグマのように熱くエネルギーに飛び回っている。



全通研鹿児島支部 運営委員のメンバー



写真/文 松本 博

